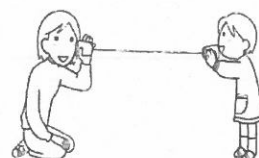


学年目標『高め合い・つながる学年にしよう!』

糸でんわ



余韻(よいん)

余韻とは、音の鳴り終わったのちに、かすかに残る響き。また、音が消えたのちも、なお耳に残る響きのことです。

9月12日・13日と文化発表会が行われました。日頃の音楽の授業、約10日間のクラス・学年の合唱練習、そして、日々の班活動を中心に据えた学級・学年の成果を交流しました。

合唱交流の日から約1週間経っても、今でも余韻にひたっていたい程の素晴らしい合唱でした。全クラスが『金賞』という同じゴールに向かって、一生懸命に取り組むと、学年の雰囲気は一変しました。合唱練習が始まると、みんなの表情や感情がとても豊かになりました。すこし控えめな人が多い学年ですが、合唱のチカラによって、ストレートに感情を表情に出せるようになり、さらに、それを歌に込めることができました。時には、その感情が、衝突になったこともあったようです。しかし、それがあったからこそ、合唱に深みが出て、幼さが残っていた1年生の時とは大きく成長し、大人の合唱になりました。

また、今まで合唱が苦手だったため、合唱練習が始まると表情が暗くなっていた人が、「今年は、後の人の歌っているのを聴くだけで楽しい。いつの間にか、まわりにつられて自分の歌っていた。」と、笑顔で話してくれました。

中学校生活の最後の合唱は終わりましたが、かすかにまだ心に残る響きを大切にしましょう。そして、次は、ブロックリーダーを中心に、地球の裏側まで響き渡る応援で、体育大会を盛り上げてくれることを期待しています。

保護者の皆様へ

いつも、本校の教育活動へのご理解とご協力有難うございます。

9月12日(木)、13日(金)の2日間、文化発表会にご参観頂きありがとうございました。今年も、残暑が大変厳しい中、汗を流しながらの合唱練習になりました。お子様の中には体調を崩す人もいましたが、当日は欠席することなく、素晴らしい歌声を聴かせてくれました。

また、今週からは、ブロックリーダーが中心となって、体育大会の応援練習が始まっています。**体育大会の当日まで毎日、①夏用体操服(上下)・②ジャージ・③水筒(十分な量)・④タオルが必要になります。**合唱練習以上に応援練習は体力的にきつくなります。家庭での学習時間が日に日に増える時期ですが、朝食と十分な睡眠をとり、規則正しい生活を送るよう、ご家庭でもご協力ください。

9月5日(木) 道德の授業

『いつわりのバイオリン』

～あらすじ～

町はすれの小さな工房には、腕の良いフランクという職人がいた。フランクは、納得のいかない作品には、自分のラベルを貼らないほど情熱を燃やしてバイオリン作りに励んでいた。

ある日、著名なバイオリニストから制作のオファーがあった。無理な日程の中で出来上がったバイオリンは満足な仕上がりにならなかった。しかし、このチャンスをものにしたいフランクは、弟子のロビンが作ったバイオリンを自分のものとして、バイオリニストに渡してしまう。尊敬する師匠の、目を疑いたくなるような行為に、ロビンは愕然とする。

有名になり注文が増えるほどに、心は重く憂うつになるフランク。ロビンに打ち明けなければならないと思うが、言葉が見つからない。そんな師匠の心を察し、ロビンはフランクの工房を去った。

ある日、ロビンから「私はあなたのバイオリンの音色にあこがれ、あなたの弟子になりました。あなたのもとでバイオリンづくりの修行ができたことは、生涯の宝です。今でも私はあなたの音を求めてバイオリンづくりに励んでいます・・・」という手紙が届いた。

～授業の感想～

1組 河田さん 人間は無意識のうちに「自分が良ければ良い」という考えになっていると改めて思った。少なくとも自分は、そう考えてしまうことがあると思った。でも、やっぱり良心は残っているし、その良心をどうやって表すかが大切なんだと感じた。

2組 田中(佑)さん 自分を偽ることは、相手だけでなく自分まで傷つけてしまうと思った。やってはいけない事だと思ったら、すぐに謝らなければならないなと思いました。

3組 木村さん 初めは、プライドがあって、それに向かって時間をかけてバイオリンをつくり続けるフランクのことを尊敬していたが、欲に負けて弟子の学期を自分のものにして売ったことにすごくがっかりしました。実際に、このように自分の欲で人に迷惑をけたりすることも、0では絶対にないので、何事にもプライドをもって進んでいけるように、自分も努力しようと思いました。

4組 熊崎さん ロビンは、フランクのことを本当に尊敬していることがわかりました。フランクがロビンのバイオリンを盗んだことは、とてもわるいことであると同時に、フランクがロビンを認めており、良い弟子だと思っているから、あのような行動をとったと思います。ロビンは盗まれた時は、嫌だったと思うし、一生の心の傷になったにもかかわらず、フランクを尊敬しているということを伝えることは、素晴らしいと思った。

5組 下境さん 今回の授業で、成功するために、嘘をついても、その時は嬉しくても、後から残るものは、罪悪感と、自分への苛立ちだと思うので、これからは、嘘をついてまで成功をしようとは思わなくなりました。

6組 根岸さん 自分のしたことをしっかり認めれば、ほとんどの失敗は許されると思う。自分のしたことを黙っておくのが一番いけないと思う。フランクと同じようなことになっても、黙っておかず、早めに謝ることが大切だと思う。

7組 西岡さん 弟子と師匠という関係で、弟子も成長するけど、師匠のフランクも焦りが出て来て、頑張ろうって思うことが出来ると思った。ラベルを張り替えたことで、バイオリニストから褒められた嬉しさを得て、ロビンに申し訳な罪悪感があったと思う。自分は、自分に憧れてくれた人を裏切るんじゃないで、一緒に頑張って、成長したい。